

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4691300018
法人名	社会福祉法人 百合砂
事業所名	グループホーム はまんだ
訪問調査日	平成21年3月2日
評価確定日	平成21年5月8日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	4691300018		
法人名	社会福祉法人 百合砂		
事業所名	グループホーム はまんだ		
所在地	鹿児島県西之表市西之表6602-1 (電話) 0997-23-3992		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年3月2日	評価確定日	平成21年5月8日

【情報提供票より】(21年2月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 6 月 10 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10人	常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算	8.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45000 ~ 46500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月12日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1		名	要介護2	3	名	
要介護3	3	名	要介護4	3	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	86.3 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田上病院、えのもと歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

島特有の自然に囲まれた環境の中に開設されているホームである。福祉や介護に精通した管理者を中心に職員はチームワーク良く、自己研鑽意欲を高く持ち、利用者とのふれあいを大切に、思いをひとつにして関わり、本人や家族などとの信頼関係を構築している。
ホーム内は開設間もないホームということを感じさせない、アットホームで充実した雰囲気をかもし出している。入り組んだ集落の立地条件をプラスに活かし複数の住民代表が運営推進会議に参加しており、地域との関係を築き支えられている。
住み慣れた町であたり前の暮らしができるケアを実践し、地域に根ざしたグループホームを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	金銭管理は出納帳の記録により管理し、毎月家族に送付している。地域との付き合いは、地域の郷土芸能や小学生の学習見学、認知症サポーター養成キャラバンメイトとして活動したり、ボランティア訪問など交流に積極的に取り組み改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は評価の意義について話し合い、全職員で評価に取り組み、ケアサービスの向上と振り返りの機会として捉えている。ストレス解消法の取り組みについて意見が出されて議題として捉え、改善に向けて話し合っている。また、前指摘項目については見直して改善に至っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	行政、4集落の住民代表など多くの参加を得て定期的開催されている。地域行事やボランティア訪問の紹介など意見が出されて運営に反映させている。出された意見に対して真摯な取り組みを検討するなど密度の濃い協力関係ができています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱の設置や第三者委員を設けている。家族参加の行事時を意見交換の場としている。嗜好物の要望や居室の臭いについての要望があり、原因追求を行い、毎日入浴を試みたり、洗濯をまめにするなどの取り組みをして運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の郷土芸能(鉄砲祭り、夏祭り、運動会)や小学校の運動会など参加している。誕生会時のボランティア訪問、小学生の学習見学や老人・民生委員クラブとの見学交流、職員が認知症サポーター養成モデル地域に行きキャラバンメイトとして活動するなど交流は盛んに行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの基本理念をもとに地域との関わりを大切にした独自の理念を職員や運営推進会議の参加者の意見を集約して作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、和室に掲示している。また、各スタッフは理念を共有して日々のケアやミーティングで振り返り、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の郷土芸能(鉄砲祭り、夏祭り、運動会)や小学校の運動会など参加している。誕生会時のボランティア訪問、小学生の学習見学や老人・民生クラブとの見学交流、職員が認知症サポーター養成モデル地域に向き、キャラバンメイトとして活動するなど交流は盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義について話し合い、全職員で評価に取り組み、ケアサービスの向上と振り返りの機会として捉えている。出された意見に対しては改善に向けて話し合っている。また、前回の項目については見直して改善に至っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、4集落住民代表など多くの参加を得て定期的に関催されている。地域行事やボランティア訪問の紹介など意見が出されて運営に反映されている。出された意見に対して真摯な取り組みを検討するなど密度の濃い協力関係ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者や地域包括支援センター職員に気軽に相談できる関係が築かれている。また、市が取り組んでいる地域密着型サービスのモデル事業にスタッフが一人として参加するなど市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行しているホーム便りや電話、来訪時に日々の暮らしぶりや身体状況を報告している。金銭管理は出納帳の記録により管理し、コピーして送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や第三者委員を設けている。家族参加の行事時を意見交換の場としている。嗜好物の要望や居室の臭いについての要望があり、原因追求を行い、毎日の入浴を試みたり、洗濯をまめにするなど取り組みをして運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者家族などとのなじみの関係を重要視したケアを心がけている。やむをえない異動の場合はダメージを受けないように十分な説明をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人勉強会やホーム内勉強会を行っている。外部研修は段階に応じた研修に参加できるように配慮し、復命研修を行い、職員の知識の向上に努めている。また、資格取得の支援をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内の事業所の職員と勉強会、見学などを行っている。ドライブ途中に立ち寄り、職員や利用者がふれあい、情報交換を行うなど、積極的な交流に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者、職員は入居希望者の住環境・生活歴を把握するために、本人、家族と面談し、意見を十分に聞いている。また、なじめるように十分な説明と居室の整備を工夫し、不安なく入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に寄り添いながら一人一人の得意とする事(季節行事のしきたり、佃煮作り、日常作業)などしてもらい中で教わったり、感謝のこぼれと笑顔に励まされながら支えあっている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、見守りと傾聴に心がけ一人一人の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の状態や生活歴、希望を把握し家族などの思いを聞き、職員の気づきや意見を出してもらい、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年ごとにモニタリングを行っており、気づきノートや経過記録などで状態変化を把握し、変化時や入退院後の場合は話し合いを行い、現状に即した計画に変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族などの状況に応じて、病院受診や墓参り、外出や外泊など必要な支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族などが希望しているかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	個々の事例では重度化や終末期に対して家族、医師、看護師を交えて話し合い、職員も共有している。ホームが支援できる方向性を統一した指針は定められていない。		重度化や終末期の対応指針を定め、方向性の統一と方針の共有が求められる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。個人情報については法人内で定期的に勉強会を行い、採用時の誓約書もとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者、職員は利用者一人一人の心身の状態やペースに留意しながら、本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節野菜の皮むきや下ごしらえ、配膳、下膳など利用者の力に応じた役割を持ち、食事の準備に関わり、職員も一緒にサポートしながら食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるように準備されており、利用者の希望や身体状況に合わせて支援している。入浴をためらう方には言葉かけなど工夫して支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味、生活歴、職歴を把握し、役割や特技を發揮できるようにしている。また、季節ごとのお菓子作り、外食、外出、ホームで飼っているネコの世話をすることなどが利用者の癒しや生きがいにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の身体状況を見ながらドライブに出かけ支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解している。日中は鍵をかけず、利用者の動作や所在を確認しながら、きめ細かな見守りし、一緒に行動するように心がけている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力のもと、昼間、夜間想定避難消火訓練を行っている。職員や家族に消防分団員がいるため安心感があり、地域住民との協力体制もできており、災害時の備蓄などもなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取量や水分量を記録し把握している。栄養バランスは栄養士のアドバイスを受けるようにしている。身体状況に合わせた食事形態(おかゆなど)を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井にスタンドグラスがあり、木のぬくもりにあふれて、どこかなつかしさを漂わせている。和室や随所にソファがあり、季節行事の飾り付けや手作りカレンダーなど飾られて家庭的で生活感あふれる共用空間である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、タンス、位牌、化粧鏡、ソファ、籐椅子、テーブル、お茶道具などそれぞれなじみの物が持ち込まれている。また、居室入り口に大きな表札があり、目印となるように工夫され、居心地良く過ごせる居室作りである。		